

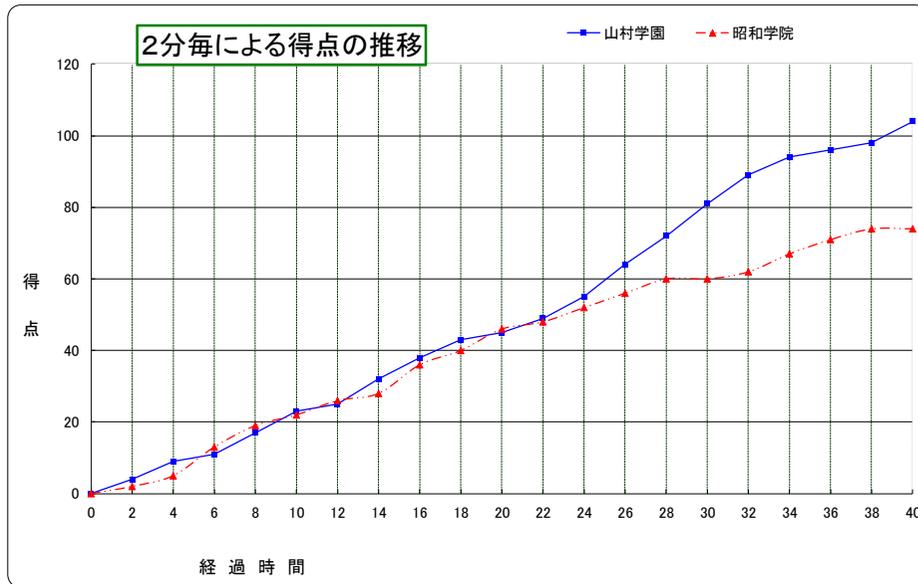
平成24年度第66回関東高等学校 女子バスケットボール選手権

平成24年6月9日(土)
さいたま市記念総合体育館
Aブロック第2回戦

チームA			チームB
山村学園 (埼玉)	104	{ 23 1st 22 22 2nd 24 36 3rd 14 23 4th 14 }	74
		74	昭和学院 (千葉)

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	増岡 加奈子	52	3	5	21	30	1	2	3	5	9	5	8	0	5
5	上原 もなみ	8	0	0	4	6	0	0	3	2	6	3	6	0	1
6	落合 里夏	15	5	12	0	2	0	0	3	2	5	4	2	0	2
7	鶴田 梨乃	7	0	2	3	5	1	1	1	1	2	1	4	0	1
8	伊東 澄	16	0	1	8	17	0	0	3	3	1	1	2	0	1
9	佐藤 朱莉	0													
10	太田 純奈	0													
11	眞渡 未来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	土屋 早織	0													
13	内田 彩織	0													
14	佐藤 楠深	6	0	0	2	3	2	2	0	0	1	0	0	0	0
15	坂本 共江	0													
16	岡澤 怜奈	0													
17	志村 純	0													
18	野口 マミ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コーチ	下田 宏吉								0	0	0				0
		104	8	20	38	63	4	5	13	13	24	14	22	0	10
		確率	40.0%		60.3%		80.0%			計 37					

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロックショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	芳賀 成美	2	0	1	1	4	0	0	2	1	3	0	1	1	0
5	佐藤 理沙	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1
6	西澤 瑠乃	6	0	1	3	9	0	0	0	1	2	1	4	1	5
7	清水 実麻	0													
8	小山 真実	20	0	0	9	17	2	3	1	9	5	2	1	1	5
9	田口 明佳莉	12	2	11	3	7	0	2	0	1	5	1	6	0	3
10	村岡 美英	8	1	7	1	5	3	4	1	3	0	0	0	1	0
11	川原 明香里	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12	赤穂 さくら	26	0	0	12	14	2	8	2	8	7	0	1	0	2
13	千葉 春花	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
14	内田 蛍	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
15	鏡 亜矢子	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
16	渡部 友里奈	0													
17	北条 彩佳	0													
18	稲垣 世羅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コーチ	鈴木 親光								0	0	0				1
		74	3	22	29	59	7	17	6	24	24	5	13	4	16
		確率	13.6%		49.2%		41.2%			計 48					



戦評

関東新人大会優勝の山村学園に対し180cm台の長身選手を2名擁する千葉県第1代表の昭和学院が挑む注目の一戦。

第1P 昭和学院は#12赤穂(1年)・#8小山(2年)の180cmを超える大型選手をインサイドに置き外角から思い切りよくシュートを放つ、#6西澤のミドルシュート・#10村岡の3Pシュートが決まり、さらにこぼれ球を#12赤穂・#8小山がリバウンドしゴールを決める。山村は絶対的エース#4増岡が1対1・高確率のミドルシュートで応戦互角の戦いとなるが、第1Pは山村が1点リードで終える。

第2P 昭和#12赤穂が速攻を決め逆転すると、山村も#4増岡がすかさずミドルシュートで再逆転、さらに#4増岡の3Pシュート・#5上原の速攻で残り6分山村が6点リード。しかし攻撃オプションの豊富な昭和は#8小山のドライブ・ミドルシュート・#12赤穂のインサイド・#9田口の外角シュートなどで追い上げ、#4増岡以外の攻め手が無く単調になった山村からリバウンドを奪い速攻を決めて逆転し前半を折り返す。

第3P 山村は2-3ゾーンディフェンス、昭和の2枚センターのリバウンドを3人で抑え、攻撃では#4増岡がマークにつく昭和#12赤穂(183cm)に対してハイポストからの1対1を決め逆転。昭和がタイムアウトを取ると山村はディフェンスをすかさずマンツーマンに変え、試合巧者ぶりを見せる。そしてここで山村#6落合に待望の3Pシュート、さらに連続で3Pシュートを決めると、#4増岡も3Pシュートを決め3連続。山村は一気に12点差をつける。#4増岡以外に攻め手が加わった山村はさらに#4増岡の1対1が冴えリードを広げ20点差とする。

第4P 昭和のセンター2人に疲れが見え始めると山村は速攻を決めさらに#4増岡・#6落合の3Pシュートが止まらず点差は30点まで広がる。昭和は下級生主体のチームや3年生主体のチームなどで追い上げを図るが山村は残り3分までスタメンは一度も交代することなくフル出場、山村の方も疲れはあるが昭和のベンチメンバーに追い上げることは出来ず山村が大差で逃げ切る。昭和学院の潜在能力の高さを山村のキャリアが上回った試合であった。

主審 佐藤 弘之

副審 佐田 幸一

記入者 井上 裕史